

1.	①	11.	①	21.	②	31.	①	41.	④
2.	③	12.	④	22.	③	32.	④	42.	②
3.	③	13.	②	23.	④	33.	②	43.	④
4.	③	14.	③	24.	③	34.	③	44.	②
5.	②	15.	②	25.	③	35.	④	45.	④
6.	③	16.	④	26.	④	36.	②	46.	③
7.	①	17.	④	27.	①	37.	①	47.	①
8.	①	18.	①	28.	④	38.	③	48.	③
9.	①	19.	④	29.	②	39.	②	49.	③
10.	②	20.	①	30.	①	40.	①	50.	②

1.

解答 ①

【解説】

正解は①の「～の内側に」です。前置詞または副詞として使われる『inside』は、箱や建物、部屋などの「内側」という空間的な位置関係を示します。まさに「中」というイメージですね。対義語は②の『outside』(～の外側に)です。この二つはセットで覚えるのが最も効果的です。他の選択肢も、位置を表す基本的な前置詞です。③の「～の上に」は 'on'、④の「～の間に」は 'between' (二つのものの間) や 'among' (三つ以上のものの間) となります。これらの前置詞は、物や人の位置を正確に描写するために不可欠なので、それぞれの持つイメージをしっかり掴んでおきましょう。

◆補足：『inside』は前置詞として "inside the house" (家の中に) のように使われるほか、副詞としても使えます。例えば、"It's raining, so let's stay inside." (雨が降っているから、中にいよう。) のように使います。この場合は後ろに名詞を伴いません。

2.

解答 ③

【解説】

正解は③の『last』です。この単語は、形容詞として「最後の」や「この前の」という意味でよく知られていますが、動詞として使うと「(ある期間) 続く、継続する」という意味になります。イベント、会議、天気、電池の持ちなど、様々なものが「どのくらいの期間続くのか」を表す際に使われます。この問題では、お祭りが開催される期間が3日間であることを示しています。他の選択肢は、イベントの異なる段階を表します。①の『open』は「始まる、開く」、②の『begin』も「始まる」、④の『finish』は「終わる」という意味です。これらはすべて『last』が表す「継続」の期間とは異なる概念ですね。

◆補足：動詞としての『last』は、英検準2級レベルでは非常に重要な単語です。使い方としては、
"The meeting will last for two hours." (会議は2時間続く予定です。) のように、期間を表す語句を伴うことが多いです。例文: "How long will this good weather last?" (この良い天気はどのくらい続くでしょうか。)

3.

解答 ③

【解説】

正解は③の「外国の」です。『foreign』は、「外国の、よその国の」という意味を持つ基本的な形容詞です。自分の国以外の国に関連する人、物、文化、言語など、幅広い事柄を修飾します。例えば、
"a foreign country" (外国)、
"a foreign language" (外国語)、
"foreign tourists" (外国人観光客) のように使います。他の選択肢は、それぞれ異なる関係性を表します。①の「地元の」は 'local'。②の「馴染みのある」は 'familiar'。④の「国内の」は 'domestic' です。特に、④の 'domestic' は、『foreign』の明確な対義語なので、必ずセットで覚えておきましょう。国際線は "international flights"、国内線は "domestic flights" と言いますね。

◆補足：『foreign』から派生した名詞『foreigner』は「外国人」を意味しますが、近年では、その人が話している言語や文化を基準にするのではなく、単に出身国が違うだけの人を指すため、やや区別的な響きを持つことがあるとされ、代わりに "people from other countries" などの表現が好まれることもあります。

4.

解答 ③

【解説】

正解は③の『mind』です。この動詞は、「～を気にする、嫌がる、不快に思う」という意味で、主に否定文や疑問文で使われることが多いです。何かが自分の迷惑になったり、不快感を与えたりすることを表します。図書館でのおしゃべりのように、マナーに反する行為や騒音などを「快く思わない」という状況にぴったりの単語です。他の選択肢も重要な動詞です。①の『forgive』は「(過ちなどを) ～を許す」。②の『ignore』は「～を無視する」。④の『allow』は「～を許可する」という意味で、『mind』とは逆のニュアンスを持つことが多いです。

◆補足：前の問題の "Do you mind if I...?" は、この動詞 'mind' の使い方に基づいた表現です。また、
"I don't mind the noise." (私はその騒音は気になりません。) のように否定文で使ったり、
"Would you mind closing the window?" (窓を閉めていただけますでしょうか?) のように、人に丁寧に何かをお願いする依頼の文でも使われます。

5.

解答 ②

【解説】

正解は②の「緊張した、不安な」です。『nervous』は、試験の前や、大勢の前でスピーチをする時など、何か重要なことや心配なことを控えて、心が落ち着かず、不安になっている状態を表す形容詞です。日本語の「ナーバスになる」という表現と同じ感覚で使えます。他の選択肢は、それぞれ異なる感情や体の状態を表す重要な形容詞です。①の「退屈した」は 'bored'。③の「興奮した」は 'excited'。④の「疲れた」は 'tired' となります。これらの感情表現は、自分の気持ちを伝えるために非常に重要なので、それぞれの単語が持つニュアンスをしっかりと理解しておきましょう。特に、'nervous' (不安なドキドキ) と 'excited' (楽しみなワクワク) の違いは、明確に区別する必要があります。

◆補足：be nervous about ～(～について緊張している) や "be nervous of ～"(～を怖がる) のような形で使われることが多いです。例文: "I always get nervous before I take an exam." (私はいつも試験の前に緊張します。)"She has a driving test tomorrow, so she's feeling very nervous." (彼女は明日、運転免許の試験があるので、とても緊張しています。)

6.

解答 ③

【解説】

正解は③の「満開である」です。この表現は、花が「満開である、見頃である」という、最も美しい状態を表します。"full" は「満ちた」、"bloom" は「開花」を意味するので、文字通り「完全に開花した状態にある」ということです。特に春の桜について話すときには、"The cherry blossoms are in full bloom." (桜が満開です。) のように、非常によく使われるフレーズです。日本の美しい文化を英語で説明する際に、ぜひ使ってみたい表現ですね。他の選択肢は、比喩的に聞こえるかもしれませんが、この熟語の直接的な意味ではありません。①「準備が整っている」は "be all set"、②「健康状態が良い」は "be in good health"、④「人気絶頂である」は "be at the height of one's popularity" など、それぞれ別の表現を使います。

◆補足：この表現は、花だけでなく、人の才能などが「(見事に) 花開いている」という比喩的な意味で使われることもあります。しかし、まずは「花が満開である」という基本的な意味をしっかりとマスターしましょう。例文: "The roses in our garden are in full bloom now. They smell so sweet." (私たちの庭のバラが今、満開です。とても甘い香りがします。)

7.

解答 ①

【解説】

正解は①の『owner』です。この単語は、何かを法的に「所有している人」、つまり「所有者」を指します。動詞の 'own' (～を所有する) に、人を表す接尾辞 '-er' が付いた形ですね。レストランや店、会社、家、ペットなど、様々なものの所有者を表すことができます。この問題では、レストランを所有し、経営している人を指しています。他の選択肢は、レストランに関連する別の人々を指します。②の

『customer』は「客」。③の『waiter』は「(男性の) ウェイター、給仕」。④の『chef』は、特にレストランの「料理長、シェフ」を指します。レストランという一つの場面でも、様々な役割の人がいることが分かりますね。

◆補足：「ペットの飼い主」も 'pet owner' と言います。例文: "I spoke to the owner of the coffee shop, and he was a very nice person." (私はそのコーヒーショップのオーナーと話したが、彼はとても感じの良い人だった。)

8.

解答 ①

【解説】

正解は①の「気をつける、危ない」です。この表現は、目前に迫った危険や、起こりうる良くないことに対して、注意を促すための強い警告として使われます。「危ない！」と叫ぶような、切迫した状況で使われることが多いのが特徴です。他の選択肢も 'watch' を使った表現や似たような状況で使われる言葉ですが、意味が異なります。②「～をじっと見る」は 'watch ～ closely'、③「～を見守る」は 'watch over ～'、④「～を探し出す」は 'look for ～' や 'find ～' となります。『watch out』が持つ、警告や警戒の強いニュアンスをしっかりと掴むことが大切です。

◆補足：命令文として "Watch out!" だけで使われることが非常に多いです。例えば、車が急に近づいてきた時に "Watch out! A car is coming." (危ない！車が来てるよ。) のように使います。また、'for' を伴って "watch out for ～" の形になると、「～に気をつける、～に警戒する」と、注意すべき具体的な対象を示すことができます。例文: "You should watch out for pickpockets in this area." (この地域ではスリに気をつけた方がいいですよ。)

9.

解答 ①

【解説】

正解は①の「…だと指摘する」です。この表現は、相手が気づいていない、あるいは見落としている重要な事実や誤りなどを、注意を促すために「指摘する、指し示す」という意味で使われます。文字通り、指 (point) を差して「ここですよ」と示すイメージを持つと分かりやすいかもしれません。'that' の後には、指摘する内容を説明する文が続きます。他の選択肢も、議論や説明の際に使われる重要な動詞ですが、ニュアンスが異なります。②「～だと提案する」は 'suggest that...'。③「～だと結論付ける」は 'conclude that...'。④「～だと要約する」は 'summarize that...' となります。これらの動詞は、論理的な文章の中で文と文をつなぐ重要な役割を果たします。

◆補足：'that' 節を取るだけでなく、"point out a mistake" (間違いを指摘する) のように、名詞を目的語に取ることもできます。例文: "The teacher pointed out that there were some spelling mistakes in my report." (先生は、私のレポートにいくつかスペルミスがあると指摘した。)

10.

解答 ②

【解説】

正解は②の『tidy』です。この単語は、動詞として「～を片付ける、整頓する」という意味で使われます。物が散らかっている状態から、あるべき場所に戻して、きちんと整えるというニュアンスがあります。日本語の「片付ける」に非常に近い感覚です。他の選択肢との違いを理解することが大切です。①の『clean』は、ほこりや汚れを取り除いて「掃除する、清潔にする」という意味です。片付いていても汚れている部屋は 'clean' する必要があります。③の『wash』は、水や洗剤などを使って「～を洗う」こと。④の『move』は「～を動かす」という意味です。部屋をきれいにする、という大きな目的は同じでも、行為の具体的な内容が異なりますね。

◆補足：『tidy』は形容詞として「きちんと片付いた、整頓された」という意味でも非常によく使われます。対義語は 'untidy' (散らかった) です。例文: "My mother told me to tidy my room." (母は私に部屋を片付けるように言った。)"He always keeps his desk tidy." (彼はいつも机をきちんと整頓している。)

11.

解答 ①

【解説】

正解は①の「はるばる、ずっと」です。この表現は、ある地点から目的地点までの「道のりの全体」、つまり「はるばる、わざわざ、道中ずっと」という意味で使われます。距離の長さを強調したり、目的地まで休みなく進み続けたことを示したりする際に活躍します。他の選択肢は、それぞれ異なる意味の表現が対応します。②「あらゆる方法で」は 'in every way'。③「いつも通りに」は 'as usual'。④「結局は」は 'after all' や 'in the end' となります。これらの表現も重要なので、この機会に確認しておくといいでしょう。

◆補足：go all the way to ～（～まではるばる行く）や "come all the way from ～"（～からはるばる来る）のような形で使われることが多いです。例文: "Thank you for coming all the way from Osaka to see me." (わざわざ大阪から会いに来てくれてありがとう。) 相手の労力をねぎらう、感謝の気持ちが込められた表現ですね。

12.

解答 ④

【解説】

正解は④の「冒険」です。『adventure』は、わくわくするような、刺激的で、時には危険を伴う珍しい体験、つまり「冒険」を指す名詞です。物語や映画のジャンルとして「アドベンチャー」と言うことができますが、それと同じ感覚です。未知の場所へ旅をしたり、困難な挑戦に立ち向かったりすることが含まれます。他の選択肢は、それぞれ全く異なる概念を表す単語です。①の「発明」は 'invention'。

②の「広告」は 'advertisement'。③の「出来事」は 'event' や 'incident' となります。これらの単語との意味の違いをしっかりと理解しておきましょう。

◆補足：形容詞形は 'adventurous' で、「冒険的な、冒険好きな」という意味になります。例文: "My grandfather told me many stories about his adventures in Africa." (祖父は、アフリカでの冒険について、私にたくさん話をしてくれた。)"Traveling alone was a great adventure for me." (一人旅は、私にとって大きな冒険だった。)

13.

解答 ②

【解説】

正解は②の「～と連絡を取り合う」です。この熟語は、物理的に離れてしまった人との関係を維持するために、手紙や電話、メールなどで「連絡を取り続ける」ことを意味します。"touch" には「接触」という意味があるので、「接触を保ち続ける」という直訳から意味を連想すると覚えやすいかもしれません。卒業や引っ越し、転勤など、人と別れる際の挨拶としても非常によく使われます。他の選択肢は、それぞれ異なる人間関係や行為を表す熟語です。①「～と仲良くやる」は 'get along with'。③「～に追いつく」は 'catch up with'。④「～に触れないようにする」は 'keep away from' や 'avoid touching' などで表現できます。

◆補足：別れ際に "Let's keep in touch!" (連絡を取り合おうね!) と言うのは、定番のフレーズです。『stay in touch with ～』も、ほぼ同じ意味で使うことができます。例文: "Even after she moved to America, we kept in touch with each other by email." (彼女がアメリカに引っ越した後も、私たちはメールでお互いに連絡を取り合った。)

14.

解答 ③

【解説】

正解は③の「これ以上は」です。副詞の『anymore』は、主に否定文や疑問文で使われ、「(今となっては) もはや～ない、これ以上～ない」という意味を表します。以前はそうだったけれど、今はもう違う、という状態の変化を示す際に非常に重要な単語です。通常、文末に置かれます。他の選択肢は、それぞれ異なる意味を表します。①の「少しでも」は 'any' (例: Do you have any money?)。②の「時々」は 'sometimes'。④の「まだ」は 'still' (肯定文) や 'yet' (否定文・疑問文) が使われます。これらの副詞は、文のニュアンスを大きく変えるので、使い方を正確にマスターすることが大切です。

◆補足：イギリス英語では "any more" と 2 語で書かれることも多いです。肯定文で使われることは稀ですが、もし使われると「最近は」という意味になることがあります。まずは、否定文・疑問文での「もはや～ない」という基本的な使い方をしっかりと覚えましょう。例文: "I don't live in Tokyo anymore." (私はもう東京には住んでいません。)

15.

解答 ②

【解説】

正解は②の「離れて」です。『**apart**』は、二つ以上の物や人が、物理的に、または時間的に「離れて、別々に」存在している状態を表す副詞です。対義語は '**together**' (一緒に) です。この二つをセットで覚えるのが効果的です。また、"**apart from** ~" の形で「～は別として、～はさておき」という前置詞句として使われることもあります。他の選択肢は、この単語の意味とは異なります。③の「ほとんど」は '**almost**' や '**nearly**'、④の「正確に」は '**accurately**' や '**exactly**' です。

◆補足：live apart (離れて暮らす、別居する)、"stand apart" (離れて立つ)、"tell A and B apart" (A と B を見分ける) のように、様々な動詞と結びついて使われます。また、"take a machine apart" (機械を分解する) のように、「ばらばらに」という意味でも使われます。例文: "My grandparents live about five kilometers apart from us." (私の祖父母は、私たちから 5 キロほど離れて住んでいます。)

16.

解答 ④

【解説】

正解は④の「注意深い」です。『**careful**』は、「注意深い、慎重な、気をつけている」という意味の形容詞です。ミスをしないように、あるいは危険を避けるために、物事に細心の注意を払っている様子を表します。動詞の '**care**' (気にかける、注意する) に、'**full**' (～で満ちている) が付いた形で、文字通り「注意で満ちている」と考えると意味を捉えやすいですね。他の選択肢は、それぞれ異なる人の性格を表す形容詞です。①の「親切的な」は '**kind**'。②の「陽気な」は '**cheerful**'。③の「正直な」は '**honest**' です。これらは全て、人を評価する際に使われる基本的な単語です。

◆補足：be careful (気をつけて) は、命令文として "Be careful!" (気をつけて!) の形で、相手に注意を促す際によく使われます。"Watch out!" が目の前の危険に対する強い警告なのに対し、"Be careful" は、より一般的な注意喚起として幅広く使えます。また、"be careful with ~" (～の扱いに気をつける) や "be careful not to do" (～しないように気をつける) の形も重要です。例文: "He is a very careful driver." (彼はとても慎重な運転手だ。)

17.

解答 ④

【解説】

正解は④の『**reached out for**』です。この熟語は、「～を取ろうと手を伸ばす」という、具体的な動作を表します。物理的に何かを手に入れようとして、腕を前方に伸ばす様子をイメージすると分かりやすいです。この問題文では、男の子がテーブルの上にあるリンゴを取ろうと、一生懸命手を伸ばしている情景が目につかびますね。他の選択肢は、それぞれ異なる動作を表します。①の『**took out**』は「～を取り出した」。②の『**put out**』は「(火などを) 消す、～を出す」。③の『**held out**』は「～を差し出

す」といった意味で使われます。似たような単語の組み合わせですが、意味は全く異なるので注意が必要です。

◆補足：『reach out for』は物理的な動作を表しますが、『reach out to (人)』という形になると、「(人)に援助の手を差し伸べる、連絡を取ろうとする」という、比喩的な意味で使われることもあります。これは少しレベルが高い用法ですが、知っておくと読解の幅が広がります。

18.

解答 ①

【解説】

正解は①の「休憩する」です。『take a break』または『take a rest』は、「休憩する、一休みする」という意味で使われる、決まり文句（コロケーション）です。長時間続けた勉強や仕事などを一度中断して、短い時間休むことを指します。これはセットで覚えてしまうのが一番です。他の選択肢を見てみましょう。②「約束を破る」は 'break a promise'、③「写真を撮る」は 'take a picture'、④「授業を受ける」は 'take a class' となり、それぞれ 'break' や 'take' を使った別の表現になります。同じ動詞でも、後ろに来る名詞によって意味が全く変わる良い例ですね。

◆補足：『break』には「壊す」という動詞の意味の他に、「休憩時間」という名詞の意味があります。お昼休みは "lunch break" と言います。例文: "You've been studying for hours. Let's take a short break." (何時間も勉強しているね。少し休憩しようよ。) 疲れた時は無理せず、しっかり休憩をとってくださいね。

19.

解答 ④

【解説】

正解は④の「家事」です。『housework』は、"house" (家) と "work" (仕事) が組み合わさった単語で、その名の通り「家の中の仕事」、つまり「家事」全般を指します。掃除、洗濯、料理、皿洗いなど、家庭を維持するために日常的に行われる様々な作業が含まれます。これは数えられない名詞（不可算名詞）なので、通常は複数形の 's' は付けずに使います。他の選択肢は、それぞれ異なる種類の仕事を指します。①の「宿題」は 'homework'。これも "home" と "work" から成る単語ですが、意味が全く違うので混同しないようにしましょう。②の「工場での仕事」は 'factory work'、③の「在宅勤務」は 'work from home' や 'teleworking' などと表現します。

◆補足：「家事をする」と言いたい時は、動詞の 'do' を使って "do the housework" と表現するのが最も一般的です。例文: "My brother and I have to help our mother with the housework on weekends." (私と弟は、週末に母の家事を手伝わなければなりません。)

20.

解答 ①

【解説】

正解は①の「約束を守る」です。この表現は、「した約束を実行する、違えない」という意味の決まり文句です。『keep』には「保つ」という意味があるので、「約束を保ち続ける」というイメージで捉えると分かりやすいですね。'promise' の代わりに 'word' を使って "keep one's word" と言うこともでき、こちらも全く同じ意味で使われます。他の選択肢も「約束」に関連する行為ですが、意味が異なります。②「約束を覚えている」は 'remember one's promise'、③「約束を書き留める」は 'write down one's promise'、④「約束をする」は 'make a promise' となります。特に 'make a promise' (約束をする) と 'keep a promise' (約束を守る) の動詞の違いは、セットで覚えておくべき重要なポイントです。

◆補足：対義語、つまり「約束を破る」は 'break one's promise' と言います。この 'keep' と 'break' の対比も、一緒に覚えておくと非常に効果的です。例文: "He is a man of his word. He always keeps his promises." (彼は信頼できる人だ。いつも約束を守る。)

21.

解答 ②

【解説】

正解は②の『reached』です。『reach』は、「～に到着する、～に着く」という意味の動詞です。この動詞の最も重要なポイントは、目的語を直接取ることができる他動詞であるため、後ろに前置詞 (at, to など) を必要としない点です。問題文の空欄の後ろには前置詞がないため、『reached』が文法的に正しい唯一の選択肢となります。他の選択肢を見てみましょう。①の『got』と③の『arrived』も「到着する」という意味ですが、通常はそれぞれ "got to a place"、"arrived at a place" のように後ろに前置詞が必要です。④の『went』は「行った」という意味で、これも "went to a place" のように前置詞が必要となります。この前置詞の有無は、英作文や会話でも間違いやすいポイントなので、これを機にしっかり覚えてください。

◆補足：『reach』には「(ある年齢や段階に) 達する」や、物理的に「(物に) 手が届く」という意味もあります。例文: "The temperature reached 35 degrees Celsius yesterday." (昨日、気温は摂氏 35 度に達した。) 例文: "I'm too short to reach the top shelf." (私は背が低すぎて一番上の棚に手が届かない。)

22.

解答 ③

【解説】

正解は③の「～を思いつく」です。この熟語は、新しいアイデア、計画、解決策などを「考え出す、思いつく」という意味で使われます。特に、何か問題があったり、新しいものが必要だったりする状況で、頭を使って創造的な答えを見つけ出す、というニュアンスがあります。ビジネスの会議や、何かを企画する場面などで頻繁に使われる、非常に実用的な表現です。他の選択肢は、それぞれ全く異なる意

味の熟語が対応します。①「～に追いつく」は 'catch up with'。②「～を我慢する」は 'put up with'。④「～と競争する」は 'compete with' です。これらの熟語も非常に重要なので、この機会にセットで確認しておくとい良いでしょう。

◆補足：目的語には、'an idea' (アイデア)、'a plan' (計画)、'a solution' (解決策)、'a name' (名前)、'an excuse' (言い訳) など、様々な言葉が来ます。例文: "We need to come up with a new marketing strategy." (私たちは新しいマーケティング戦略を考え出す必要がある。)

23.

解答 ④

【解説】

正解は④の「計画」です。『project』は、特定の目的を達成するために、注意深く計画され、実行される仕事や活動のことを指します。日本語の「プロジェクト」とほぼ同じ意味で使われることが多いです。学校での研究課題、会社での新製品開発、地域のイベント開催など、個人的なものから大規模なものまで、様々な「計画」や「事業」を指すことができます。他の選択肢はそれぞれ意味が異なります。①の「予測」は 'prediction' や 'forecast'。②の「贈り物」は 'present' や 'gift'。③の「主題」は 'subject' や 'theme' となります。これらの単語は、ビジネスや学校の文脈でよく登場するので、区別して使えるようにしておきましょう。

◆補足：動詞として使う場合は、発音が変わり、「プロジェクト」のように後ろにアクセントが置かれます。意味は「～を計画する」の他に、「～を予測する」や「～を投影する」などがあります。プロジェクター (projector) は、映像を映し出す (project する) 機械ですね。まずは名詞としての「計画」をしっかり覚えましょう。

24.

解答 ③

【解説】

正解は③の「後で」です。『later』は、「後で、もっと遅い時間に」という意味を表す副詞で、ある基準となる時よりも後の時点を示します。別れ際の挨拶 "See you later." (また後でね) は、皆さんもよく知っている決まり文句ですね。他の選択肢は、スペルが似ていたり、同じく時間を表したりするため混同しやすいですが、意味が異なります。①の「最近」は 'lately' や 'recently'。②の「以前に」は 'before'。④の「遅れて」は、副詞の 'late' が使われます。品詞と意味を正確に区別することが大切です。

◆補足：『later』は、"sooner or later" (遅かれ早かれ) という重要な熟語でも使われます。比較級の形で "later than ~" (～より後に) となることもあります。例文: "I'm a bit busy now, so can I call you back later?" (今は少し忙しいので、後でかけ直してもいいですか?)

25.

解答 ③

【解説】

正解は③の「意味を強調する」です。『really』は、「本当に、とても、実に」という意味で、形容詞や副詞、動詞などを修飾し、その意味を強調する働きを持つ、非常に重要な副詞です。"very" と似たような使い方をすることが多いです。例えば、"I'm tired." (私は疲れた) というよりも "I'm really tired." という方が、「本当に疲れているんだ」という気持ちが強く伝わります。①「意味を打ち消す」のは 'not' などの否定語、②「意味を比較する」のは 'more' や '-er' などの比較級、④「意味を疑問視する」のは 'perhaps' や 'maybe' などが使われる状況に近いです。『really』の核心的な役割は「強調」であるとしっかり理解しましょう。

◆補足：『really』は、文頭で "Really?" と語尾を上げて言うと、「本当に？」と驚きや意外な気持ちを表す相づちとしても、日常会話で非常によく使われます。また、動詞を修飾して「本当に～する」という意味でも使えます。例文: "I really like Japanese anime." (私は日本のアニメが本当に好きです。)

26.

解答 ④

【解説】

正解は④の「～に反対して、～を相手に」です。前置詞の『against』は、「対立」や「抵抗」を中核的なイメージとして持っています。そこから様々な意味に発展しますが、最もよく使われるのが、意見や計画などに「～に反対して、～に逆らって」という意味です。また、スポーツの試合などで「～を相手にして、～と対戦して」という意味でも頻繁に使われます。例えば、"Japan played against Brazil." (日本はブラジルと対戦した) のように使います。他の選択肢は、それぞれ全く異なる意味を持つ前置詞や表現が対応します。①「～に賛成して」は 'for'。②「～なしで」は 'without'。③「～の代わりに」は 'instead of' となります。

◆補足：『against』には、物理的に「～に寄りかかって、～にもたれて」という意味もあります。例えば、"He was leaning against the wall." (彼は壁に寄りかかっていた) のように使います。これも、壁と彼が「対抗」して支え合っている、と考えるとイメージしやすいかもしれません。このように、前置詞は中心的なイメージを掴むと、多様な意味を理解しやすくなります。

27.

解答 ①

【解説】

正解は①の「調理法」です。『recipe』は、特定の料理を作るための材料や手順を詳しく書いたもの、つまり「レシピ」や「調理法」を指します。お料理が好きな方にはお馴染みの単語かもしれませんが。この単語を覚える上で特に注意したいのが、②の「領収書」を意味する 'receipt' との混同です。スペルが似ており、どちらも日常生活でよく使われるため、テストでも狙われやすいポイントです。'receipt' の 'p' は発音しない黙字（リシートのように発音）であることも、併せて覚えておきましょう。

う。③の「報告書」は 'report'、④の「繰り返し」は 'repetition' となり、それぞれ全く異なる単語です。

◆補足：『recipe』は、料理の文脈だけでなく、比喩的に「(何かを成功させるための) 秘訣、方法」という意味で使われることもあります。例えば、"What's your recipe for success?" (あなたの成功の秘訣は何ですか?) のように使います。まずは基本的な「調理法」の意味をしっかりと押さえましょう。

28.

解答 ④

【解説】

正解は④の「運、幸運」です。『luck』は、人の力ではどうすることもできない偶然の力、つまり「運」や「運勢」を指す名詞です。良い運の場合は「幸運」、悪い運の場合は「不運」(bad luck) となります。日本語でも「ラッキー」と言うことがあります。これは形容詞の 'lucky' (運が良い) から来ていますね。他の選択肢は、スペルが似ていたり、全く異なる意味を持つ単語です。①の「錠、鍵をかける」は 'lock'。②の「外見、見る」は 'look'。③の「塊」は 'lump' や 'block' です。これらの単語との混同に注意しましょう。『luck』は数えられない名詞 (不可算名詞) として扱われるのが基本です。

◆補足：試験や試合に臨む友人に対して "Good luck!" (幸運を祈るよ！頑張って！) と声をかけるのは、最も一般的な励ましの表現です。また、"best of luck" という言い方もあります。例文: "He has had a lot of bad luck this year." (彼は今年、不運なことがたくさんあった。)

29.

解答 ②

【解説】

正解は②の「内気な、恥ずかしがり屋の」です。『shy』は、人の性格を表す形容詞で、特に知らない人や新しい状況に対して、緊張したり不安になったりして、積極的に話したり行動したりするのが苦手な様子を指します。日本語の「シャイ」という言葉とほぼ同じ感覚で使うことができます。他の選択肢は、それぞれ異なる人の性格や性質を表す重要な形容詞です。①の「賢い」は 'smart' や 'clever'。③の「静かな」は 'quiet'。④の「親切な」は 'kind' や 'helpful' となります。内気だからといって必ずしも静かだとは限らず、親しい人の前ではおしゃべりな場合もありますので、'quiet' とは区別して考えましょう。

◆補足：『shy』は、be 動詞と一緒に "He is shy." のように使われるのが基本です。また、"be shy about doing" (～するのを恥ずかしがる) や "be shy with strangers" (人見知りする) のような形で使われることもあります。例文: "My daughter is very shy, so she doesn't like speaking in front of people." (私の娘はとても恥ずかしがり屋なので、人前で話すのが好きではありません。)

30.

解答 ①

【解説】

正解は①の「～でいっぱいである」です。この熟語は、ある空間や容器が物で物理的に「満たされている」状態を表すのが最も基本的な意味です。例えば、"The box is full of old books." (その箱は古い本でいっぱいです。) のように使います。また、物理的なものだけでなく、人の心や性質、状況などが、ある感情や要素で「満ちている」という比喩的な意味でも非常によく使われます。例えば、"Her story was full of humor." (彼女の話はユーモアに満ちていた。) などがその例です。②「～に満足している」は 'be satisfied with'、③「～に興味がある」は 'be interested in'、④「～に賛成している」は 'agree with' など、それぞれ異なる前置詞を使った別の表現となります。

◆補足：類義表現として 'be filled with ~' があります。'be full of' が「満ちている」という状態を客観的に描写するのに対し、'be filled with' は「(何かによって) 満たされている」という、受け身のニュアンスを含むことがあります。しかし、多くの場合で交換可能です。例文: "His heart was full of joy when he heard the news." (その知らせを聞いて、彼の心は喜びでいっぱいになった。)

31.

解答 ①

【解説】

正解は①の『supply』です。この単語は、動詞として「～を供給する、与える」、名詞として「供給、蓄え、必需品」といった意味を持つ、非常に重要な単語です。特に、必要とされているものを、必要な人や場所へ継続的に提供する、というニュアンスがあります。災害への備えとして、水や食料を供給したり、備蓄したりする文脈に最適な単語です。他の選択肢を見てみましょう。②の『demand』は「需要、要求」という意味で、『supply』(供給) の対義語にあたります。経済のニュースなどでよくセットで使われますね。③の『waste』は「～を無駄にする」。④の『share』は「～を共有する、分け合う」という意味です。

◆補足：『supply A with B』または『supply B to A』で「A に B を供給する」という形でよく使われます。名詞としては、"office supplies" (オフィス用品) や "medical supplies" (医療用品) のように複数形で「～用品」という意味でも頻繁に登場します。例文: "The government supplied food and water to the victims of the earthquake." (政府は地震の被災者に食料と水を供給した。)

32.

解答 ④

【解説】

正解は④の「頭痛」です。『headache』は、"head" (頭) と "ache" (痛み) という二つの単語がくっついてできた、とても分かりやすい言葉ですね。文字通り「頭の痛み」を意味します。このように、体の部分を表す単語に "-ache" を付けることで、その部分の痛みを表現する単語がいくつかあります。例えば、①の「腹痛」は "stomachache"、②の「歯痛」は "toothache"、③の「腰痛」は "backache"。

と言います。これらの単語は、日常生活や病院での会話などで非常に重要になるので、セットで覚えておく大変便利です。体の不調を正確に伝えることは、海外での生活や旅行の際にも自分を守るために大切なスキルですよ。

◆補足：症状の強さを伝えるために、"a slight headache" (軽い頭痛) や "a terrible headache" (ひどい頭痛) のように形容詞を付けて表現することができます。また、風邪の症状などを説明する際には "I have a headache and a fever." (頭痛と熱があります。) のように、他の症状と組み合わせて使うことも一般的です。

33.

解答 ②

【解説】

正解は②の『obey』です。この動詞は、規則、法律、命令、または人の指示などに「従う、服従する」という意味で使われます。特に、自分よりも立場が上の人や、守るべきルールに対して、その要求通りに行動することを示します。親の言うことに従う、先生の指示に従う、法律を守る、といった文脈で使われる、少し硬い響きを持つ単語です。他の選択肢は、それぞれ全く異なる意味を持つ動詞です。①の『protect』は「～を守る、保護する」。③の『forgive』は「～を許す」。④の『believe』は「～を信じる」です。これらの動詞との意味の違いを明確にしておきましょう。

◆補足：『obey』の対義語、つまり「～に逆らう、従わない」は 'disobey' となります。否定を表す接頭辞 'dis-' を付けるだけなので、覚えやすいですね。名詞形は 'obedience' (服従) です。例文: "All drivers must obey the speed limit." (すべての運転手は制限速度に従わなければならない。)

34.

解答 ③

【解説】

正解は③の「～と同様に、～もまた」です。『as well』は、文の終わりに置かれて、「～もまた、同様に」という追加の情報を示す働きをします。'too' と非常によく似た意味と使い方をしますが、『as well』の方が少しフォーマルで、書き言葉で使われることが多い傾向があります。例えば、"I like music, and I like movies, too." という代わりに "I like music, and I like movies as well." と言うことができます。他の選択肢は、それぞれ全く異なる意味を表します。①の「うまく、上手に」は副詞の 'well' の基本的な意味です。②「～と同時に」は 'at the same time'。④「～の方が良い」は 'had better' や 'prefer' などで表現されます。

◆補足：'as well as ~' という形になると、「～だけでなく…も」という意味の重要な接続詞句になります。例文: "He can speak French as well as English." (彼は英語だけでなくフランス語も話せます。) この形も頻出なので、併せて覚えておきましょう。

35.

解答 ④

【解説】

正解は④の「完全に、全く」です。『**totally**』は、「完全に、すっかり、全く」という意味で、形容詞や動詞、文全体などを強調する働きを持つ副詞です。'completely' とほぼ同じ意味で使うことができます。口語では、相手の意見に「全く同感だよ！」と強く同意する際に、"**Totally!**" と一言で返事をするような使われ方もします。他の選択肢は、それぞれ異なる度合いを表す副詞です。①の「部分的に」は 'partially'。②の「時々」は 'sometimes'。③の「ほとんど」は 'almost' や 'nearly' です。これらの程度を表す副詞は、文の意味を正確に伝える上で非常に重要なので、それぞれのニュアンスをしっかりと理解しておきましょう。

◆**補足**：形容詞の 'total' (合計の、完全な) から派生した副詞です。例文: "I **totally** forgot about our appointment. I'm so sorry." (私たちの約束のこと、すっかり忘れていました。本当にごめんなさい。)
"The two situations are **totally** different." (その二つの状況は全く異なります。)

36.

解答 ②

【解説】

正解は②の『**die**』です。この単語は、人や動物が「死ぬ」という意味で使われるのが最も一般的ですが、植物が「枯れる」という意味でも使われます。生命活動を終える、という中心的な意味を捉えると分かりやすいですね。他の選択肢は、植物の状態変化に関連しますが、意味が異なります。①の

『**dry**』は「乾く」という意味です。水がなくなって乾くのは枯れる一因ですが、枯れるという生命活動の終わりそのものを指すわけではありません。③の『**fall**』は、葉や花が「落ちる」という動作を指します。④の『**sleep**』は「眠る」で、植物には通常使いません。したがって、生命活動を終えるという意味の『**die**』が最も適切です。

◆**補足**：『**die**』は動詞で、過去形・過去分詞は 'died' と規則的に変化します。一方、「死んでいる、枯れている」という「状態」を表すのは、形容詞の『**dead**』です。(例: a **dead** flower / 枯れた花)。この動詞と形容詞の品詞の違いは非常に重要なので、しっかり区別しましょう。死因を表す際は "die of ~" (病気など) や "die from ~" (怪我など) が使われます。

37.

解答 ①

【解説】

正解は①の「緊急事態」です。『**emergency**』は、すぐに行動を起こさなければならないような、予期せぬ危険な状況や重大な事態を指します。日本語の「緊急事態」や「非常時」という言葉にぴったりと当てはまります。例えば、火事や大地震、急な病気などがこれにあたります。病院の「救急外来」は "Emergency Room" (ER) と呼ばれますね。他の選択肢は全く意味が異なります。②「便利な状態」

は 'convenience'、③「平均的な状態」は 'average condition'、④「エネルギー」は 'energy' です。スペルが少し似ているので、④と混同しないように注意しましょう。

◆補足：「非常口」は "emergency exit"、「非常ブレーキ」は "emergency brake" のように、他の単語と結びついて「非常用の～」という意味で使われることが非常に多いです。例文: "In case of an emergency, please press this button." (緊急の場合は、このボタンを押してください。)

38.

解答 ③

【解説】

正解は③の「移住者」です。『immigrant』は、別の国から永住する目的でやって来た人、つまり「(外国からの) 移住者、移民」を指す名詞です。動詞の 'immigrate' (移住してくる) から派生した単語です。グローバル化が進む現代社会において、ニュースや新聞などで非常によく目にする重要な社会用語の一つです。他の選択肢は、それぞれ異なる立場の人を指します。①の「輸出業者」は 'exporter'。②の「旅行者」は 'traveler' や 'tourist'。④の「投資家」は 'investor' です。これらの単語も、国際的な文脈でよく使われるので、意味を正確に理解しておきましょう。

◆補足：『immigrant』とよく似た単語に『emigrant』があります。『immigrant』が「入ってくる」移住者を指す (in のイメージ) のに対し、『emigrant』は自国から「出ていく」移住者を指す (ex のイメージ) という違いがあります。どちらの視点から見るとによって単語が変わるのがポイントです。例文: "Many immigrants came to America in the 19th century." (19世紀、多くの移民がアメリカへやって来た。)

39.

解答 ②

【解説】

正解は②の「…でさえあれば、…である限り」です。この表現は、「…という条件が満たされている間は」という条件を示す接続詞句として使われます。「～という条件で」という意味の 'if' や 'on condition that' と似たような働きをします。例えば、"You can use my computer as long as you are careful." (注意してさえくれば、私のコンピューターを使ってもいいですよ。) のように、許可を与える際の条件として使われることがよくあります。他の選択肢は、それぞれ異なる意味の接続詞が対応します。①「…である間に」は 'while'。③「…にもかかわらず」は 'although' や 'even though'。④「…なので」は 'because' や 'since' です。

◆補足：so long as も "as long as" と全く同じ意味で使うことができます。『as long as』には、文字通り「(長さや時間が) ～と同じくらい長く」という意味もありますが、接続詞として「～である限り」という意味で使われる方が、英検では重要度が高いです。例文: "I don't mind what you do, as long as you are happy." (君が幸せでさえあれば、君が何をしても気にしないよ。)

40.

解答 ①

【解説】

正解は①の「～に立ち寄る」です。『stop by ～』は、「(場所) に (ついでに) ちょっと立ち寄る」という意味で使われる、非常に便利な口語表現です。特に、どこかへ行く途中や帰り道に、短い時間だけ店や友人の家などを訪れる、というニュアンスがあります。約束なしに気軽に寄る感じです。②「～のそばで止まる」は 'stop beside' や 'stop next to'、③「～によって止められる」は 'be stopped by' という受け身の形、④「～するのをやめる」は 'stop doing' となります。'stop' という基本的な動詞に 'by' が付くだけで、特別な意味になるのが熟語の面白いところです。

◆補足：『stop by』は、'drop by' や 'drop in at' とほぼ同じ意味で使うことができます。これらの表現をいくつか知っていると、会話の幅が広がります。例文: "Could you stop by the supermarket on your way home?" (家に帰る途中で、スーパーに寄ってくれませんか?)

41.

解答 ④

【解説】

正解は④の「確かに、きっと」です。『certainly』は、話している内容が「確かに、間違いなく」真実であることを強調したり、相手の依頼や質問に対して「かしこまりました、もちろんです」と快く承諾したりする際に使われる副詞です。形容詞の 'certain' (確信して、確かな) から派生した単語です。他の選択肢は、それぞれ全く異なる状況を表します。①の「偶然に」は 'by chance' や 'accidentally'。②の「幸運にも」は 'fortunately' や 'luckily'。③の「ほとんど」は 'almost' や 'nearly' です。これらの副詞は、文全体のニュアンスを決定づける重要な役割を持っています。

◆補足：相手への丁寧な返答として "Certainly." だけで使われることも多いです。これは "Of course." や "Sure." よりもフォーマルな響きがあります。ホテルの従業員がお客さんに対応する際などによく使われます。例文: "She will certainly succeed in her new business." (彼女は新しいビジネスできっと成功するだろう。)

42.

解答 ②

【解説】

正解は②の「助手、店員」です。『assistant』は、主に仕事において他の人を助ける役割の人を指す言葉です。日本語でも「アシスタント」として定着していますね。「助手」や「補佐役」と訳されます。動詞の "assist" (～を助ける、手伝う) から派生した単語であることを知っている、意味を推測しやすいです。また、お店で働く「店員」を "shop assistant" と言うことから、単に『assistant』で店員を指すこともあります。他の選択肢を見てみましょう。①の「指導者」は 'leader'、③の「旅行者」は

'traveler'、④の「科学者」は 'scientist' となります。これらは全て人を表す名詞ですが、職業や役割が異なります。

◆補足：大学の「助教」を "assistant professor" と言ったり、会社の役職で「課長補佐」を "assistant manager" と言ったりします。また、最近では "AI assistant" (AI アシスタント) のように、私たちの生活を助けてくれる技術に対しても使われるようになっていきます。例文: "My boss hired a new assistant last week." (私の上司は先週、新しいアシスタントを雇った。)

43.

解答 ④

【解説】

正解は④の「記事」です。『article』は、新聞や雑誌、ウェブサイトなどに掲載されている、特定のトピックについての文章、つまり「記事」を指すのが最も一般的な意味です。ニュース記事、特集記事、科学記事など、様々な種類の記事に対して使うことができます。他の選択肢は、新聞や雑誌に関連する言葉ですが、意味が異なります。①の「広告」は 'advertisement' や、その省略形の 'ad'。③の「見出し」は 'headline' や 'heading'。②の「芸術」は 'art' です。『article』は、これらの要素とは区別される、文章本体のことを指す、と理解しましょう。

◆補足：『article』には、文法用語として、'a', 'an', 'the' などの「冠詞」という意味もあります。これは少し専門的な用法ですが、英語を深く学ぶ上では重要な知識です。また、契約書などの「条項」を指すこともあります。まずは「記事」という基本的な意味を確実にマスターしてください。例文: "I read an interesting article about climate change this morning." (今朝、気候変動についての興味深い記事を読んだ。)

44.

解答 ②

【解説】

正解は②の「最近、近頃」です。『lately』は、過去から現在までの比較的短い期間、つまり「最近、この頃」を表す副詞です。現在完了形と共に使われることが非常に多いのが大きな特徴です。「最近、～しましたか？」や「最近、～していません」のように、過去のある時点から現在までの経験や状態について述べるときに活躍します。他の選択肢は、それぞれ異なる時間を表す表現です。①の「遅れて」は 'late'。③の「後で」は 'later'。④の「遅かれ早かれ」は 'sooner or later' となります。スペルが似ている単語が多いので、混同しないように注意が必要です。

◆補足：『lately』と似た意味の単語に 'recently' があります。多くの場合で交換可能ですが、『lately』が現在完了形と結びつきやすい（継続的なニュアンス）のに対し、'recently' は過去形ともよく使われます。まずは「lately = 最近」と覚え、現在完了形との相性が良いことを知っておきましょう。例文: "Have you seen any good movies lately?" (最近、何か良い映画を見ましたか?)

45.

解答 ④

【解説】

正解は④の『drops in at』です。『drop in at (場所)』または『drop in on (人)』は、前の問題の "drop by" とほぼ同じ意味で、「(場所や人のところに) ひょっこり立ち寄る」という意味を表します。この問題でも、特に約束などをせず、気軽に本屋に寄るという状況が想像できますね。他の選択肢を検討しましょう。①の『comes over』は「(人の家に) 遊びに来る」という意味でよく使われます。②の『steps into』は「～に足を踏み入れる」という物理的な動作を表します。③の『gets to』は「～に到着する」という意味で、単に目的地に着いたことを示します。「気軽に立ち寄る」というニュアンスを含むのは『drops in at』が最も適切です。

◆補足：『drop by』と『drop in』は、どちらも「立ち寄る」という意味で非常によく似ていますが、『drop in』の方がやや口語的で、偶然性が高いニュアンスを持つことがあります。しかし、ほとんどの場面で交換可能です。行き先が場所の場合は前置詞 'at' を、人の場合は 'on' を使うことが多いです。

46.

解答 ③

【解説】

正解は③の「私の知る限りでは」です。この表現は、自分が述べることが、自分の持っている知識や情報の範囲内に基づくものであることを示す際に使われます。断定するのを避け、自分の発言に少しだけ控えめなニュアンスを加えたい時に非常に便利なフレーズです。「私が知っている範囲ではこうですが、もしかしたら違うかもしれません」という気持ちが含まれています。他の選択肢も "as ... as" を使った別の表現と関連しますが、意味は全く異なります。①「私に関する限り」は 'as far as I'm concerned'。②「私が望む限り」は 'as long as I want'。④「私ができる限り」は 'as much as I can' や 'as ... as possible' など表現されます。

◆補足：このフレーズは、文頭や文末に置かれることが多いです。例文: "As far as I know, the museum is closed on Mondays." (私の知る限りでは、その博物館は月曜日は閉館しています。) 自分の知識に 100%の自信がない時にこの一言を添えることで、より丁寧で慎重なコミュニケーションが可能になります。

47.

解答 ①

【解説】

正解は①の「間違った」です。wrong は、「正しい」を意味する right の対義語として、事実や基準、道徳などにおいて「正しくない」状態を表す、非常に基本的な形容詞です。「間違った答え」(the

wrong answer)や「間違った道」(the wrong way)のように、正誤が明確な事柄に対して広く使われます。②「弱い」は weak、③「難しい」は difficult、④「退屈な」は boring が対応します。

◆補足：wrong は「間違った」という基本的な意味の他に、以下のような重要な使い方があります。不調を表す場合: "Something is wrong with my computer." (私のコンピューターはどこか調子が悪い。) 不正を表す場合: "It is wrong to steal." (盗むことは不正だ。) 相手を気遣う場合: What's wrong? は、相手の様子が普段と違う時に「どうしたの?」と心配して尋ねる決まり文句です。

48.

解答 ③

【解説】

正解は③の『throughout』です。この前置詞は、「(場所)の至る所に、隅から隅まで」や「(期間)の間中ずっと、始めから終わりまで」という意味を表します。ある範囲全体の隅々にまで及んでいる、というイメージを持つと分かりやすいです。この問題の文脈では、"throughout the world" で「世界の至る所で」、つまり「世界中で」という意味になり、彼の音楽が地域を限定せず、全世界的に愛されていることを示します。他の選択肢も重要な前置詞です。①の『among』は「(3つ以上のものの)間で」という意味で、多くのものの中に囲まれている状態を表します。②の『between』は「(2つのものの)間で」という意味です。④の『toward』は「～の方へ」という方向性を示します。これらの空間的な関係を表す前置詞は、意味を正確に区別して使えるようにしておきましょう。

◆補足：「期間」を表す用法も非常に重要です。例えば、"He was silent throughout the meeting." (彼は会議の間中ずっと黙っていた。) や "We worked on the project throughout the year." (私たちは一年を通じてそのプロジェクトに取り組みました。) のように使います。

49.

解答 ③

【解説】

正解は③の「～をじっと見る」です。『touch』は、「～に触る、触れる」という物理的な接触を表すのが最も基本的な意味です。しかし、それ以外にも比喩的な意味を多く持つ重要な多義語です。この問題では、それが持たない意味を選ぶ必要があります。①「～に触る」は中心的な意味です。②「～を感動させる」も、人の心に「触れる」という比喩的な意味で非常によく使われます。"I was touched by his kindness." (私は彼の親切に感動した。) の形は頻出です。④「～に連絡を取る」も、"get in touch with" や "keep in touch with" の形で、「連絡を取り合う」という意味で使われます。一方、③の「～をじっと見る」は、'stare at' や 'gaze at' などの動詞が使われ、『touch』にこの意味はありません。

◆補足：このように、基本的な動詞ほど多くの意味を持つ傾向があります。一つの意味だけでなく、文脈に応じて様々な意味を理解できることが、英語力を向上させる上でとても大切です。例文: "Don't touch the paintings in the museum." (美術館の絵に触らないでください。)

【解説】

正解は②の『blossom』です。この単語は、特に果樹や観賞用の樹木の花が「咲く、開花する」という意味で使われる動詞です。日本語の「桜が咲く」にぴったり合うのがこの 'blossom' です。一般的な草花が咲く場合は 'bloom' や 'flower' という動詞も使われますが、'blossom' は特に木に咲く花のイメージが強いです。他の選択肢も植物に関連する重要な単語です。①の『grow』は、植物だけでなく人や動物などが「育つ、成長する」という、より一般的な過程を表します。③の『plant』は、種や苗を地面に「～を植える」という行為を指す動詞です。④の『water』は、名詞では「水」ですが、動詞としては「～に水をやる」という意味になります。それぞれの単語が植物のライフサイクルのどの段階を表すかを理解することが大切です。

◆補足：『blossom』は名詞として「(特に果樹の) 花」そのものを指すこともできます。日本で最も有名な例は、"cherry blossoms" (桜の花) ですね。また比喩的に、人の才能などが「開花する、見事に発展する」という意味で使われることもあります。例文: "The apple trees in our garden start to blossom in early spring." (私たちの庭のリンゴの木は、早春に花を咲かせ始めます。)
